

皆様おはようございます。ろうそくがいよいよ3本になりました。

来週は待ち望んだ喜ばしいクリスマス礼拝の日です。

喜ばしきクリスマスのストーリーが進んでおります。ザカリアとマリアに天使がそれぞれ語りかけました。突然のことで動転してザカリヤは自分の頭で考えられない事は受け入れられないと言ってしまいました。そして彼は話すことが出来なくなって、深く深く考える時が与えられました。

マリアもまた突飛なことに驚きましたけれども、神様の素晴らしいことが成るのであればそれを受け入れたいと積極的に考え、自分がどのような助けになるかはわからないけれど、私は主のはしため、小さな小さな者であり、神様は大きな大きな存在だから、委ねよう、この身にお言葉がなりますように、と語りました。

その頃マリアは急ぎでエリサベトのもとに向かいました。天使のみ告げの中であつた、親類エリサベトの身にも起こった出来事の中、彼女がどのように過ごしているか、会いたくて仕方がなかったわけです。

「こんにちは。」1:41 マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、

1:42 声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。

1:43 わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。

1:44 あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。

1:45 主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

マリアはどうして私が、この私が救い主誕生のために用いられるのかと悩んでいたことでしょう。ガリラヤの小さな村ナザレ。貧しい、身分の低いこの私がどうしてなんだろうと考えていたに違いありません。おめでとう、恵まれた方との天使の言葉を何度も思い返しながらも、どうして私なんだろう、もっと身分が高くて富んだ人、大きな町に住んでいる有名な人ではないのだろうかと思ったことでしょう。

しかし、エリサベトに出会い、「主がおっしゃった事は必ず実現すると信じた方はなんと幸いでしょう」との言葉に、マリアははっとしたのではないのでしょうか。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」

そうだ、すべては神様がお定めになったこと。私をお定めになられ、私に語り掛けられ、そして語られたことを神様は責任をもって、力強く実行なさる。ど

うしてとか、なぜとか、どうやってとかいう事は、私が考えるべきことではないのだと、再びマリアは思ったのではないのでしょうか。

私たちも、キリスト者とされていて、神様が私たちを通して御業を世界に表されると知るときに、そのような恐れがあるのではないのでしょうか。気が引けて、足がすくむのではないのでしょうか。

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう。」

私がくよくよ悩む事はない。神様のお定めになられたこと、おっしゃること、告げ知らせることに委ねよう。神様はそれをすることがお出来になるからと、私たちは、積極的に神様からの仰せにこそ私たちの道があると、目を見開きたいと願います。

そこでマリアは言いました「わたしの魂は主をあがめ、／わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。」魂も霊も、人の心の深い深いところを意味しますが、2度繰り返して語られています。主をあがめますとは、主を大きく大きくして見つめますと言う意味です。

小さな小さな文字は、私たちが目を凝らしても見ることはできないことがあります。その小さな文字も拡大鏡を当てれば大きく見えます。はっきりと見えます。文字や絵をはっきり見て味わい、見分けることができ、識別することができます。私たちは主をそのようにして大きく大きく見上げているのでしょうか。それとも遠く遠くにポツンとある、識別困難な対象としてみているのでしょうか。あえて間合いを取って、自分の生活が脅かされないように予防線を張っているのでしょうか。それとも目の前の恐れの中に震えてそれが視界の中のすべてになっているのでしょうか。

「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも 目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人も わたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。」

聖書には、こんなに素晴らしいことが描かれていたのか記されていたのかと、そのことを知ることができるわけです。神様はそこまで私のことをご存じで、この私を選んで目を留めていて下さったのかと驚くことがあります。私たちはそんな神様に目を見張らずして、何に対して目を凝らしてズームアップする必要があるというのでしょうか。

ローマ 8:35 だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。よう。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。

8:36 「わたしたちは、あなたのために／一日中死にさらされ、／屠られる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。

8:37 しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を取っています。

8:38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、

8:39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

神様が成そうとしておられることをそのまま受け入れよ。主がおっしゃったことは、思い図られることは、私たちが心配せずとも必ず実現する。神様の良き業は、神様の最善の内になるのだから、私は神様を目の前にして他の諸々の心配事とかそういったものを全部投げ捨てて、神様を目の前に置いて大きく見て喜び讃え進んでいけばそれで良いのだとマリアは悟りました。

この讃歌には、マリア自身を指す言葉と、「わたし」という言葉がたくさん出てきます。

1:48 身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。

今から後、いつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、

1:49 力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、
1:50 その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。

私、この主のはしためである小さな小さな私。このわたしををいつの世の人も／わたしを幸いな者と言うでしょう、身分の低い、この主のはしためにも／目を留めてくださったからです。力ある方が、／わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、

1:50 その憐れみは代々に限りなく、／主を畏れる者に及びます。

マリアの悩みはこの私に神様が目を留めてくださったという気付きによって吹き飛びました。この小さな私に神様は目を留めて、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから、私は恐れません。この私に主は偉大なことをしてくださった。この私たちが幸いなものとなったと、そのことを喜ぶものの3人と変えられました。苦悩があるかもしれませぬ。思うようにいかないことがあるかもしれませぬ。しかし主は私たちに目を留めていて下さいます。力ある方が、わたしに偉大なことをしてくださるのです。

詩篇 8:1 【指揮者によって。ギテイトに／合わせて。賛歌。ダビデの詩。】

8:2 主よ、わたしたちの主よ／あなたの御名は、いかに力強く／全地に満ちていることでしょうか。天に輝くあなたの威光をたたえます

8:3 幼子、乳飲み子の口によって。あなたは刃向かう者に向かって砦を築き／報復する敵を絶ち滅ぼされます。

8:4 あなたの天を、あなたの指の業を／わたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。

8:5 そのあなたが御心に留めてくださるとは／人間は何ものなのでしょうか。人の子は何ものなのでしょうか／あなたが顧みてくださるとは。

この慈しみの主に目を留め、今週も進みましょう。